

研究課題 (テーマ)	学生間での持続的な技術英会話指導を伴う TEDx @ TPU の立ち上げ		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	情報システム工学科	教授	鳥山 朋二
	同上	准教授	唐山 英明
研究結果の概要			
<p>学生の国際会議での発表経験は重要である。本プログラムは、授業では十分に実施できないマンツーマンでの英会話環境を長期間整備することによって、技術英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的として実施した。本学科・専攻の学生・院生3～4名程度に対して英語を母国語とするレベルの講師を1名配置(計2名)し、学生のレベルに合わせた英会話指導(発音、文法、ヒアリング)を実施(指導時間中は日本語禁止)した。週に2時間程度の指導を、23回実施した。また、時間外に食事会、クリスマスパーティなど、英語学習の参加意欲向上を目指したイベントも実施した。ヒアリングでは通常指導時の指導用スピードのみでなく、2名の講師によるネイティブスピードでの会話を多く取り入れることで、実用的なヒアリング力を養成した。</p>			
<p>プログラムの実施内容の成果確認用に、大講義室において英語教員、専門教員、及びゼミの学生等の観衆(60名程度)の前で、参加学生全員によるプレゼンテーション大会を実施した。参加学生からは、英語プレゼンテーションに対する自信など、聴講した下級生からは専門課程における英語学習の受講希望などの肯定的意見がみられ、学生の学習に対する意識高揚につながった。また、最終的には参加学生の卒業研究発表会で、英語による口頭発表(1名)、英語による要旨執筆(3名)が実施された。申請時の目標であった①大学院生が主体となって指導できるノウハウについては、指導の後半から参入した3年生に対する大学院生の貢献からあきらかに習得できたといえる。また、指導用の②教材については、教員の許可を得て再利用のためにデータ化した。③実施前後における学生の参加率は卒論の時期にも変化することなく、積極的な参加態度が継続して見られた。また、指導時間内は英語以外の禁止をしていたため、④参加者の英語による会話時間は明らかに増加している。</p>		 <p style="text-align: center;">英会話指導実施風景</p>	
<p>今後の展開</p> <p>本プログラムは英語力向上を行うこと、上級生が下級生に技術英会話に関する指導を行うための教材・ノウハウを獲得することを目指して実施し、現在のところ順調に成果を達成している。この環境を維持し、今後は大学院生のみによる指導の実施を目指して、下級生指導のノウハウを増やし、専門的な英語に内容を拡大する。これによって、学術研究に貢献できる学生を育てることおよび、教養課程の英語指導と連動した専門課程での技術英会話クラスのあり方を確立させることが見込める。</p>		 <p style="text-align: center;">プレゼンテーション大会</p>	